

県指定史跡

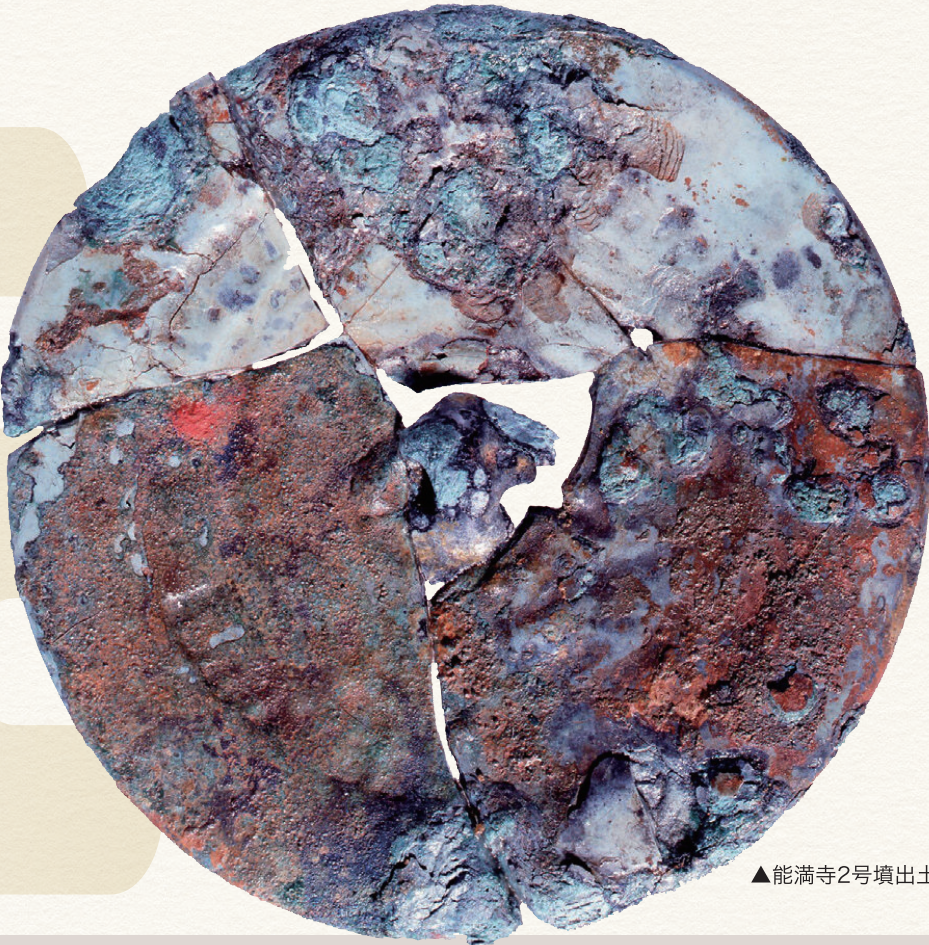
しも とう ばる こ ふん ぐん

下唐原古墳群

今年3月14日付けの毎日新聞、または3月17日付けの朝日新聞で、上毛町の下唐原古墳群が県指定文化財に指定されたという記事をご覧になった方もいらっしゃると思います。

「下唐原古墳群？」そんな聞いたことがないぞ、と思われたことと思います。この下唐原古墳群というのは、何度も上毛風土記で取り上げたことがある「能満寺古墳群（1号〜4号）」と「西方古墳」の5基からなる、下唐原所在古墳群の指定名称です。

福岡県が、これらの古墳群を県指定史跡に指定するにあたり、新たに付けた名称です。「能満寺古墳群」と「西方古墳」について、今一度詳しく説明します。



▲能満寺2号墳出土銅鏡

能満寺古墳群と西方古墳は発見から30年を経過し、元号も平成から令和に変わった令和3年3月11日付けで、両古墳について、町の指定文化財指定申請書が、「下唐原・友の会」より上毛町教育委員会あてに提出されました。

このことをうけ、同3月23日付けで、上毛町教育委員会から上毛町文化財保護委員会に、両古墳についての上毛町指定文化財（史跡）の指定について諮問しました。保護委員会で審議された結果、同4月8日付けで、上毛町文化財保護委員会より上毛町教育委員会に、両古墳ともに上毛町指定文化財に指定されるよう答申がなされました。同4月15日の上毛町教育委員会会議（定例会）での報告を経て、同4月26日に上毛町教育委員会告示第2号をもって、上毛町指定文化財に指定されました。

その後、令和5年度に、福岡県の文化財保護審議会の調査を経て、山国川流域の首長墓系列では、数少ない前期古墳であり、豊前地域のほかの首長墓系譜を含めて考えると、古墳時代前期における地域社会の動向を知ることができる県内でも稀有な文化財であることが認められ、「下唐原古墳群」として県指定史跡に指定されました。なお指定日は、福岡県公報に告示された日付の令和6年3月29日になります。

能満寺古墳群

平成3年に日本各地で大きな被害をもたらした台風17・19号は、能満寺裏山の雑木林でも多くの樹木を倒しました。能満寺本堂は、すでに比高差20m近い河岸段丘の法面を垂直に近く削って、その際に建てられています。風倒木を処理した後、雨天の折に度々本堂裏が小規模な崖崩れを起こすことから、危機を感じて地下げを計画し、工事に着手していました。

しかし古墳の存在が確認されたことから、平成4・5年度に福岡県教育委員会により発掘調査が実施されました。発掘調査が進行するに連れて葺石が現れて前方後円墳と判明し、さらに盗掘坑を清掃して2種類の鏡片が出土しました。にわかに古墳保存

▲能満寺2・3号墳全景（西上空から）



西方古墳

西方古墳は、一級河川山国川が形成した河岸段丘の縁辺部に立地します。本古墳の立地する比高差20m近い段丘斜面をほぼ垂直に下った平野部には、唐原地区の圃場整備事業に係る発掘調査で、縄文時代から近世までの多くの遺跡群が確認されています。

本古墳は、平成2年度に実施した一般国道10号建設に伴う金居塚遺跡の発掘調査中、福岡県教育委員会により発見され、測量調査が実施された前方後円墳です。

当時は山国川下流域で見つかった前方後円墳ということで、同じく前方後円墳であ

▲西方古墳遠景（西から）



への機運が、当時の大平村教育委員会・村郷土史会そして地元区から高まりました。能満寺・村当局・福岡県関係諸機関等への働きかけが功を奏し、前方後円墳である3号墳は前方部の一部をカットするだけで防災工事が実施されることとなりました。また、他の古墳についても埋め戻しの後、保存された状態が保たれています。

能満寺古墳群は、円墳（1号墳）、方墳（2・4号墳）、前方後円墳（3号墳）で構成されています。なかでも3号墳は、前方部の形状が左右非対称で、丘陵下の平野から望むことができる東側のみを意識して築造した全長33mの前方後円墳です。発掘調査では、古墳から銅鏡や鉄剣、ガラス玉、土器が出土しており、3世紀後半から4世紀前半頃にかけて、4号墳、2号墳、1号墳、3号墳の順で築造されたと考えられます。

▲能満寺古墳群から西方古墳を臨む（西から）



ることが確認された能満寺古墳群3号墳とともに、研究者の注目を集めました。過去には土地所有者が、後円部の土取りを開始したものの、前方後円墳であることを知る故老に諭され、消失は半分のところでも何とか収まったという苦い過去をもちます。

以来、開発に係ることもなく、現況を呈しています。

令和3・4年度に実施された範囲内容確認調査では、前方後円墳の全長が約58mの大きさになることが確認されました。また、能満寺3号墳と同様に、丘陵下の平野からの眺望を意識して築造されていると推定されます。築造時期については、4世紀末頃に築造された、能満寺3号墳に後出する首長墓と考えられます。

▲西方古墳後円部（南から）

